

## 台湾の学生が脱・脱原発を訴え 国民投票を実現

― 福島第一原子力発電所やその周辺を訪問し、  
現状を YouTube で拡散 ―

台湾原子力学会の会長で精華大学特聘教授の李敏さんや台湾の学生数人が、いわき市や福島第一原子力発電所を訪問しました。  
なぜ学生たちは来日したのでしょうか。  
今回、台湾の学生らを受け入れて案内した東京工業大学特任教授の奈良林直さんにお聞きしました。  
(編集部)

二〇一七年八月一日に、台湾全土で大規模停電が発生し、全世界の約半数が被害を受けました。

その原因は、蔡英文総統が二〇二五年までの原発全廃を目標とした脱原発政策を選挙で公約し当選したため、第一(金山)原子力発電所の1号機・2号機が定期検査に入ったのを機に、再稼働を認めず、電力がひっ迫したからです(現在は商業運転の許可期限を迎え、廃止が決定)。

一昨年の夏も猛暑日が続いたため、消費電力が上がリ、連日、エアコンを

使わないよう節電が呼びかけられました。

そのような中、代替のLNG火力発電所では燃料バルブの開閉を誤るという人為的ミスが起り、瞬間的に燃料が止まったことで、芋づる式に停電になってしまいました。

停電は五時間でしたが、こんなに暑いのに、なぜ原子力発電所を止めておくのかと、核を以って緑を養うという意味を持つ「以核養緑チーム」を学生が立ち上げ、脱原発を止めようという活動が始まりました。

(提供: 奈良林直氏)



●クマのお面をして国民投票を促す学生たち

農水産物について現地をみて確認したいと学生たちが要望し、台湾原子力学会と交流を続けていたシニアネットワークの金氏顕さんに相談があり、東工大で視察を受け入れ、案内することになりました。

### 福島第一原発沖合一〇キロの海底にいたヒラメを美食

初日は豊洲市場を見学し、翌日、福島県いわき市にある水族館「アクアマリンふくしま」に向かいました。

水族館では、職員で獣医資格を持っている富永さんが福島第一原子力発電所の沖合一〇キロの海底にいた八二センチもある大きなヒラメを前日に釣ってきて、放射線測定をしてくれました。耳石による推定年齢は

一〇歳で、事故が起きたのは八年前ですから、もし海底に放射性物質が残っていたら、放射線検出器で検出

台湾では、二〇一八年より国民投票ができる年齢が一八歳に引き下げられ、全学生が投票できるようになったので、街頭に立ち、国民投票に必要な五〇万人の署名を集めました。  
実際国民投票に入ると、思うように票が伸びませんが、学生たちは友人に YouTube などの SNS を駆使して参加を呼びかけました。その結果、過半数を超える約五九〇万票を集め、脱原発の条文が政府の法律から削除されました。  
本当に原子力は危険なのか……。事故を起こした福島第一原子力発電所や、台湾が輸入禁止にしている福島の

(提供：奈良林直氏)



●ヒラメの放射線量の測定中に取材を受ける李先生と学生

できるはずで。

そこで、さばいたヒラメの切り身を、鉛の分厚いゲルマニウム半導体検出器の中に置いて蓋をし、二時間かけて測りました。

その結果、ヨウ素、セシウムは検出限界以下でした。カリウムは少し検出されましたが、もともと海藻などにカリウムは含まれていますので、他の食物同様、人体に問題のない程度でした。また、カリウムが検出されているということは、微弱な放射線が測定できていることにもなります。

台湾では、福島の水産物は輸入が禁止されていますが、放射線検出器で安全を確認したヒラメは富永さんが調理し、刺身、カルパッチョ、生で魚を

食べない学生には唐揚げにしてくれたので、私も含め、皆「すごく美味しい」と完食し、その日は富岡に宿泊しました。

翌朝、廃炉資料館で事故原因を勉強してから、福島第一原子力発電所を視察しました。学生たちは、水密建屋の中に非常用電源や注水ポンプなどがあれば事故を止めることができたことを知りました。台湾の原子力発電所の重要な海水冷却ポンプは水密建屋の中に設置され、海水取水路には落下式の防潮ゲートが設置され、ロープを切断すれば、ギロチンのように直ちに津波の侵入を防ぐ津波対策をとっています。台湾の送電網は複数の送電網がある日本に比べ弱いため、二メートルの高台に大型のガスタービン発電機二基を設置し、小型の火力発電所のように、計一二万キロワットの電力を非常時に供給できます。また、山をくりぬいて三五万トンの水を貯える貯水池も発電所

の建設時から建設しています。

事故後に新規制基準で日本の原子力発電所で設置したものが、台湾では建設時から対策されていたのですから、李先生も「台湾の原子力発電所の

(提供：奈良林直氏)



●「以核養緑チーム」のメンバーとレンタカーを運転して案内した東京工業大学助教の高橋氏(左端)

安全性は確保されており、脱原発する必要はない」と主張されています。

福島を視察した調査結果をさまざまな手法で発信

東工大のシンポジウムでは、今回の訪日の目的や、福島を視察した調査結果を学生がプレゼンしました。「台湾の原子力発電所はより安全だということを知った」と話し、現在YouTubeでも、視察をして自分たちが感じたことを発信しています(※)。

今回台湾の学生が来ることを知り、共同通信が福島で取材をしてくれて、翌日、新聞に掲載されました。その他、福島民報、福島民友、北海道新聞にも掲載されています。台湾の新聞でも紹介され、記事の反響はすごく大きかったです。

私は、台湾の人は活気があって、積極的だと思います。台湾の学生と同じ年頃の日本の学生にも、難しいことに立ち向かう元気が出てくると良いと思っています。原子力の火を消さないよう気概をもってほしいですね。

※ <https://www.facebook.com/CitizenTAI/videos/382372592702976/>  
UzpfSTEWMDAwMjM3NzIIMjExOToyNDY4OTE0MzgzMTk3Nzc4/